

船舶事故等調査報告書

平成22年9月30日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010門第94号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成22年4月23日 16時45分ごろ	
発生場所	大分県中津市田尻崎中津港 中津港北防波堤灯台から真方位213° 1,080m付近 (概位 北緯33° 36.6′ 東経131° 14.6′)	
事故等調査の経過	平成22年6月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 貨物船 第四拾八盛^{せいえい}栄丸、498トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 134181、盛幸海運有限会社</p> <p>乗組員等に関する情報 船長、五級海技士（航海）</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 プロペラ翼曲損</p>	
事故等の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、約3～4ノットの対地速力で、中津港西部の岸壁に着岸作業中、平成22年4月23日16時45分ごろ、岸壁付近の浅所に乗り揚げた。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風力 3、視界 良好 海象：波高 約50cm、潮汐 高潮時、潮高 約2.5m	
その他の事項	<p>本事故の発生場所は、中津港西部にある水深約0～5mの岸壁付近で、その岸壁は南西側で行き止まりとなっており、南西側に行くほど水深が浅くなっている。</p> <p>船長は、着岸岸壁付近の水深が浅いことを知っていたが、正確な数値は把握していなかった。</p> <p>船長は、入港前に潮汐を調査していた。</p> <p>事故当時の喫水は、船首約3.8m、船尾約5.0mであった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、中津港において着岸作業中、船長が、満船状態であったものの、高潮時なので水深に問題はないものと思い込んだことから、水深が喫水よりも浅い場所で着岸作業を行った可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が、中津港において着岸作業中、船長が、水深に問題はないものと思い込んだため、喫水よりも水深が浅い場所で着岸作業を行い、岸壁付近の浅所に乗り揚げたことにより発生した可能性があると考えられる。	